

分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
環境	1	データセンターの建設と環境保全について	共通	データセンターの建設に伴い、さらに変電所が増える見込みで、印西市の美しい景観が失われることを懸念しています。UR開発時には台地と谷津の関係を十分に考慮しておらず、松崎台公園の事例では湿地をコンクリートで埋めるなど、自然環境を損なう計画が行われました。今後は台地と谷津の関係を踏まえた都市計画が必要です。私たちは、以下のことを提案します。 1.厳格な基準の設定 法律より厳しい基準を設け、印西市の里山景観や街並み、住民の生活環境を阻害する建設物を認めないこと。敷地内の緑地面積を増やし、景観に調和した環境を整備すること。 2.在来生態系の保全 里山近接地では在来の落葉樹を植え、芝生や外来植物ではなくその土地に生える草を維持し、年2回の草刈りを行うこと。これにより、キツネやウサギなどの生き物が行き来できる環境を確保すること。 3.雨水浸透対策 台地上の立地では、谷津の生態系を守り洪水リスクを軽減するため浸透柵や浸透性コンクリートを使用し、雨水浸透と涵養を促進すること。 4.グリーン損失への対応 開発による緑地損失に見合った保全措置を講じ、里山生態系に配慮した活動を義務付けること。 5.カーボンニュートラルの義務化 印西市のカーボンニュートラル宣言に基づき、企業に再生可能エネルギー導入やCO ₂ 削減を義務付けること。 6.環境モニタリングの実施 事業実施後、生活環境や生態系への影響を調査し、問題があればぜひ措置を講じること。特にデータセンターは電力使用による熱放出の影響が不明なため、毎年環境アセスメントを実施し、隣接する里山地域も調査対象とすること。とりわけ千葉ニュータウン中央駅前に建設予定のデータセンターについて、印西市の基本計画や景観条例に基づき強力な指導を行うこと。	市民の皆様から厳しいお言葉をいただいています。本来なら1カ月半で事前協議が整うところを、かなり期間を延ばしてきましたし、景観審議会も初めて開きました。代替地も初期段階で提示して交渉してきました。我々としては法律の枠内でできることはかなりやってきましたが、相手は数十億円を投資していて、折り合いがついていないのが現実です。法律を超えて止めに行けば賠償の話になります。恐らく数億円では済まない金額です。ですので、白紙撤回はかなり厳しいです。ただ、景観や地域振興策、環境配慮については要綱を超えて強く要望しています。法律の枠内でギリギリまで攻めているところです。 条例については正直難しいです。開発指導要綱は弱いんですよ。努力義務ばかりで、強制力がない。条例にすれば良いかというと、流山市や白井市も条例を持っていますが、罰則はあっても本質的な強制力は弱い。結局、法律の問題なんだろうなと思います。ただ、要綱のままでは弱いので、そこは担当課で検討を始めています。 今後については、地区計画を変えることが一番強力な手法です。条例を作っても所有権は縛れません。この国は法治国家で、所有権は強く保護されています。地区計画も地権者の同意なしでも進められますが、訴訟リスクはあります。土地の価値が下がるので、地権者からの反発もあります。自然を守る価値と経済的価値のせめぎ合いです。少なくとも、今後こういう事態が起きないようにルールを整えています。今回の件については、現場の職員も本当に頑張ってくれています。本来ならすぐ通すべき手続きですが、都市計画の趣旨に合っていないので、条件が整わない限り事前協議は整ったとは言えないと粘ってくれています。	—	環境保全課 都市計画課
環境	2	データセンターの建設と環境保全について	共通	印西市開発事業指導要綱に基づいて開発が進んでいると思います。ただ、この要綱の中身を見ると「努める」とか「努力する」とか、そういう表現ばかりで、具体的な数値がほとんどないんですよね。例えば緑化計画については「事業区域内に5%以上の緑地」とありますけど、5%なんてほんのちよっとです。これを少なくとも30%くらいにしてほしいと思います。千葉ニュータウン中央駅の北側、竹中のビルとかデータセンターがある辺り、あそこはかなり緑地を取っていますよね。池や噴水もあって、3割どころじゃないくらい確保していると思います。ですから、こういう数値をもっと増やす方向で要綱を改正するか、あるいは条例でデータセンターや倉庫業に関して追加するか、どちらかで対応していただきたいです。		—	環境保全課 都市計画課
環境	3	データセンターの建設と環境保全について	共通	環境対策のところです。要綱には「印西市環境基本条例や環境保全条例を遵守すること」と書いてありますが、「印西カーボンニュートラルチャレンジ2050」が入っていないんですよ、これは追加すべきだと思います。それと、水環境についても「積極的に検討する」としか書いていなくて、具体的な基準がない。浸透柵を何平米以上ならどれくらい設置するのか、そういう具体例を入れてほしいです。さらに、景観の部分も具体例がないんです。例えば壁面緑化とか、前面道路からの距離。今は5メートルくらいですかね。これを10メートルにするとか、そういう数値をしっかり決めてほしいです。		—	環境保全課 都市計画課
環境	4	データセンターの建設と環境保全について	共通	印西牧の原の計画で500メガワットとか600メガワットっていう数字が出ていますよね。稼働率を考えると、年間の電力消費は印西市全体の倍くらいになるんじゃないかと思います。そのうち半分は排熱です。つまり、印西市が使う電力と同じくらいの熱量が外に出るわけです。夏場には北側の田んぼにその熱が流れることになる。細かい数値は分かりませんが、必ず影響は出ると思います。だから、条例でデータセンター周辺の気温や水温、湧水温を定期的に調査する仕組みを入れてほしいです。市役所だけでやるのは大変だと思うので、地域の人たちと協力してデータロガーを使って気温を測るとか、そういう仕組みと一緒にやっていけたらいいと思います。データロガーなら設置しておけば自動で記録できますし、パソコンに取り込めば簡単に分析もできます。		—	都市計画課
まちづくり	5	千葉NT中央駅前に建設予定のデータセンターについて	中央北	もともと千葉ニュータウンって「ゴーストタウン」って言われていて、よくあんなところで人間が生きていけるなってバカにされたこともありました。でも今は素晴らしい街になったと思います。だからこそ、駅前にデータセンターができるって聞いたときは信じられなかったんです。土地の再利用という話は分かりますが、イオンの隣の駐車場、あそこはやっぱりデータセンターではないんじゃないかという強い思いがあります。都市計画の常識とか、印西市の良識、バランス感覚が問われているんじゃないでしょうか。私はこの駅前のデータセンター問題、諦めるしかないのか、それとも闘える余地があるのか、その現状を教えてくださいたいんです。		—	都市計画課

グループ別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答						R7.12.8 環境推進市民会議有志	
分類	NO.	テーマ	対象地区	参加者の発言	市長の発言	補足など	関係課
環境	6	農地の活用について	共通	農地についても、市長はよくご存じだと思いますが、印西市では遊休田がどんどん増えています。米は作れないし、木が生えて草ボウボウ、蛙もいない。蛍の観察に行っても蛙の声が聞こえないなんて信じられない状況です。東京近郊でこういう自然を残せるのは印西市の強みです。	農地については本当に難しいです。特に谷津田の問題。印西市全体で見ると、50代や40代の農家さんもまだいらっしゃいますし、萩原なんかは4軒で20〜30ヘクタールやっています。でも一番の課題は谷津田で、どんなにお金を払っても機械が入れられないし、生産効率が合わないんです。	—	農政課
環境	7	農地の活用について	共通	市長とは市長選前にエコスローマラソンで少し農業の話をしました。我が家も印旛地区で田んぼをやっていましたが、もう75歳を過ぎるとやる気がなくなり、今年で止めました。貸したいけど借り手が見つからない。広報にも「貸したい人・借りたい人」って載っていますが、実際どれくらい活用されているのかが疑問です。谷津田は機械を運ぶのが大変で、誰もやりたがらないんです。田んぼを守ることは、日本人の米を守ることです。もし世界で何かあって食料が入らなかつたらどうしますか。だから今ある田んぼは守らなきゃいけない。そのために市として守りやすい方法を考えてほしい。機械が壊れたら1,000万円かかるし、息子は都会で働いていて帰ってこない、みんなそんな状況です。農地を守るのは国の問題でもあります。印西市としても里山や緑を守るためにモデル地区を作って、例えば我孫子市のように田んぼを残すなら1平米30円支給するとか、環境保護の名目で補助を出す仕組みを検討してほしい。データセンターからの税収を農地保全に使えないかということも考える時期だと思います。ちなみに、草深の隣にできる東京電力の新しい変電所、あそこにはイモリがたくさんいます。アカハライモリは印西市に2カ所しかいないんですよ。こういう生き物を守ることも含めて、住みよい印西を残すために農地保護政策をしっかり考えてほしいです。	田んぼとして残すことより、市民農園やビオトープ的な形で残す方法を考えています。西廣先生たちが行っている湿地化の取り組みもありますが、面積が少ないので数十ヘクタール、場合によっては100ヘクタール規模の耕作放棄地をどうするか、本当に解が見えていません。お金を払えば解決する問題じゃないということが分かってきました。	—	農政課
環境	8	農地の活用について	共通	後継者に1,000万円払えばやるんじゃないでしょうか。	違うんです、米価が上がってもやりたがらない人がいる。谷津田は機械が入れられないから、圃場整備をしないとそもそもできない。圃場整備ができない土地もあるので、そこは本当に難しいです。農政課長も自分で田んぼをやっていますが、機械が入れられないから全部手植えです。僕も最初は「お金で解決できるんじゃないか」と思っていたんですが、そうじゃないんだと最近分かってきました。	—	農政課
環境	9	グリーンインフラについて	共通	市長さんのおっしゃることはよく分かりますし、その通りだと思います。ただ、現実問題として、今の印西市のイメージが「箱物ばかり目立つ不気味な街」になりつつあるんじゃないかという気がしていて、やっぱりそのイメージを良い方向に持っていきたいということが私たちの願いなんです。グッドマンジャパンの建物も、もう慣れちゃったから何とも思わなくなっちゃったけど、最初に見たときは本当に吐き気がしました。ああいうものに慣れてはいけないと思うんですよね。	本当におっしゃる通りで、今一つ我々が考えていることが「グリーンインフラ」です。例えば流山市には「グリーンチェーン認証制度」がありますが、印西市でも同じように、環境に配慮した企業をグリーンインフラを認証する仕組みを作れないかと考えています。例えば緑地の確保や水を守る取り組みをしていただいた企業に対して認証を与える制度を検討しています。これはなるべく早く進めたいと思っています。今まで都市計画、環境保全、公園、道路など縦割りになっていた部分を全部取っ払って、環境保全課の下でワーキンググループを立ち上げています。世界に誇れる「環境と調和したまち・印西」を実現するための新しい枠組みを最速で作ろうと努力していますが、皆さんが求めるスピード感に追いつけていないところは本当に申し訳ないと思っています。積み重ねをしながら、最終的には町全体のインフラをグリーンインフラに変えていく世界を作りたいと思っています。ただ、これには10年くらいかかると思います。	—	環境保全課
まちづくり	10	連戸制度について	共通	連戸制度について、市はどのように考えているのか。	止めるのは難しいです。止めたいという気持ちはありますが、現実的には時間がかかりすぎます。むしろ、止めないでおきつつ、規制を課していく方が現実的です。本音を言えば、連戸エリアはもともと市街化区域だったのを戻したところが多いので、本来なら市街化区域として区切って、インフラ整備やルール作りをしたい。でも、県の市街化区域編入はハードルが高いし、止めるにしても地権者の理解が必要で何年もかかる話です。だから、次善策として規制をかけながら進める方が現実的だと思っています。	—	都市計画課